

野のはな書道研修 中国 泰山・曲阜・鄭道昭の旅

2014 年 10 月 23 日～27 日



10月23日(木) 關西空港(KIX) T1より9:40発 中国東方航空730で上海(Shanghai)

8

10:50 上海浦東空港 (PVG) T1 に着く (機内食有)

(両替はホテルで。デポジットがいるかも知れない。)

地下鉄 2 号線（8 つ目の広蘭路站で乗り換え、「虹橋火車站」で下車、改札口を出て 3 階へ）またはエアポートバス（機場 1 線）で虹橋空港経由、虹橋枢紐東交通中心へ、下車して徒歩（3~5 分）で高鉄の虹橋站へ。（エアポートバスは 30 元、後払い、約 60 分、61 km、直行便）

上海虹桥駅で、7人分のチケットを確保（泰安まで）。昼食は駅構内で適当に。（列車 G142（14:21-18:13）で泰安へ、専用車泰安駅出迎え、ホテルまで案内）（虹桥駅から泰安まではG列車で約3:30分、2等374元＋アラチャイナの手数料90元/1枚）（ホテルは泰安東尊華美達大酒店（ラマダ・プラザ泰山で2泊、朝、夕食付）

10月24日(金) 泰山登山。朝食後、7時半にホテルロビーに集合。「岱廟」正陽門までアラチャイナの専用車で行く。(ガイドなし、岱廟観光、登山後、中天門から専用車でホテルまで、その後夕食。昼は各自で適当に)

岱廟に入り(30元、60歳以上は半額)、「泰山刻石」を見、漢碑亭にある「張遷碑」「衡方碑」「孫夫人碑」「第一山」などを見る(岱廟碑林)。岱廟を抜けて、紅門路から紅門を通り、泰山登山口(萬仙樓)^{かいせきよく}へ。(入山料127元、60歳以上は半額)1時間ほど登った所にある経石峪へ(「泰山金剛經」を見る)。登山道に戻り、頂上を目指す。あと2時間半ほどかけて頂上へ。頂上近くで「紀泰山銘」を見る。玉皇頂(頂上)へ。午後4時頃下山開始。しんどい人はロープウェイ(80元?)で中天門へ、中天門から5時半ころ専用車でホテルへ、そして夕食。

10月25日(土) 朝食後、7時ロビーに集合、専用車で曲阜の孔廟の仰聖門まで、後は徒歩で孔廟(三孔セットで150元ほど、60歳以上は半額)など見学。(孔廟では曲阜碑林、「漢魏六朝碑刻陳列館」など見学) 適当な所で昼食(1人70元?)、午後1時頃に孔廟の仰聖門に集合。そこから専用車で萊州のホテルへ。午後7時頃到着予定。

(ホテルは萊州新世紀大酒店・4星、夕食・朝食付)

10月26日(日) 8時ホテルロビーに集合。太基山へ。10時半頃、雲峰山に向かう。

13時頃昼食(昼食はアラチャイナが準備)。14時頃天柱山へ。

専用車で5時半頃、青島のホテル前まで。(入場料は三山合計で150元くらいか?)アラチャイナはここまでで終わり。(ホテル青島鷹谷萬雍酒店・4星にチェックイン、1人179元、朝食付)その後ホテルで夕食(1人70元?)。

10月27日(月) 朝食後、8時頃から青島観光へ。適当に昼食(1人70元)。

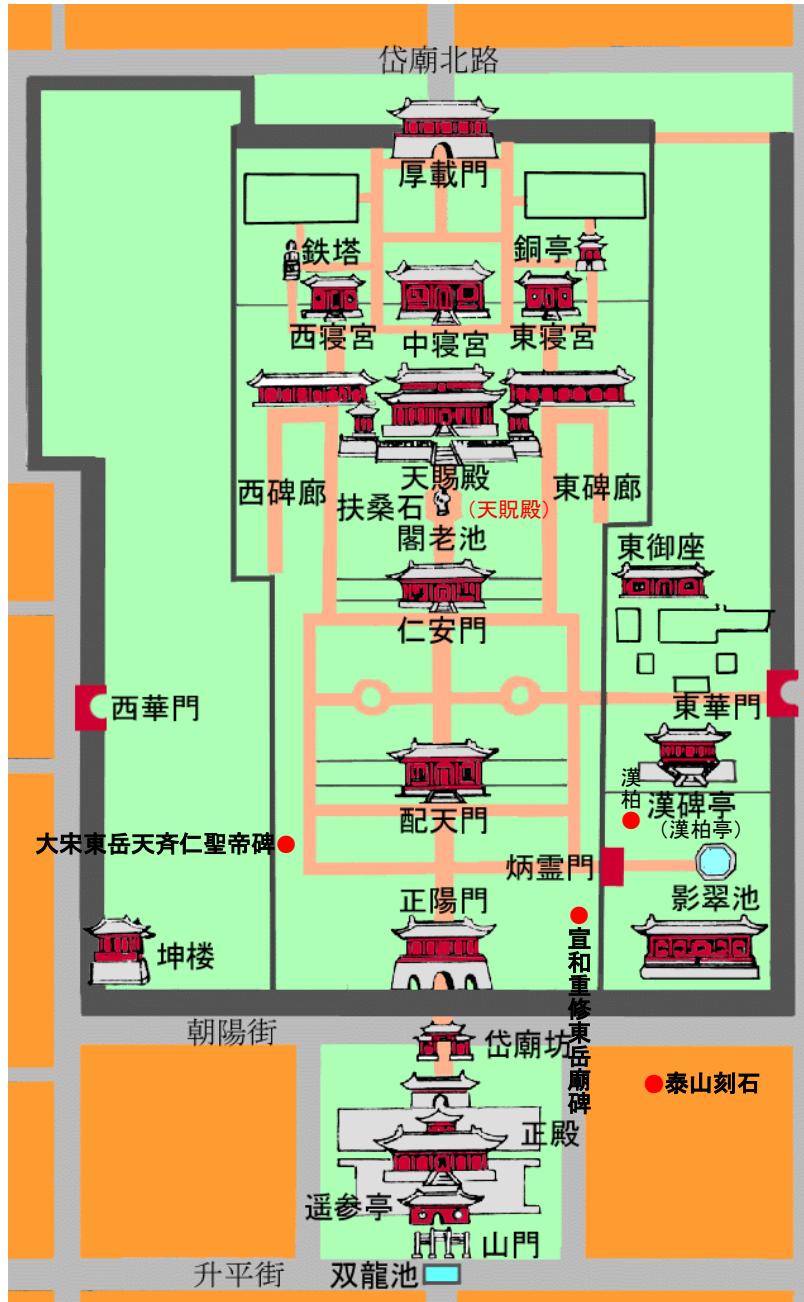
3時頃、バスかタクシーで青島流亭国際空港へ(1人30元くらい)。

17:50分発の中国東方航空2059便で大阪へ。

関西国際空港T1(ターミナル1)に21:45分到着予定。MKタクシーで帰宅。

かそいは3時頃、青島駅から鉄道で青州へ。

資料 1 「岱廟」



「岱廟」は、泰山を祀る廟。岱山
は泰山の別名。皇帝が封禅の儀式
をする時の宿泊所だったらしい。
はじまりは、秦代。紫禁城、孔廟
と並ぶ中国三大宮廷建築の一つ。
約 3 キロの城壁に囲まれている。
参道などには、石碑や漢画像石な
どが 500 くらいあり、西安、曲阜
の碑林に次ぐ碑林といわれる（岱
安碑林）。

せいようもん
正陽門に入った左側にある「大宋東岳天齊仁聖帝碑」(宋代・1013年、高さ 8.2m)を見る。次に正陽門の右側の「宣和重修東岳廟碑」(宣和 6 年・1124、高さ 9.52m 幅 2.1m)を見、炳靈門を入り、漢柏亭の漢柏(漢の武帝が封禪の儀式のとき植えたという樹齢 2 千年以上の柏)を見る。「漢柏連理枝」は泰安八景の一つ。米芾の「第一山」を見る。次に漢碑亭の「歴史碑刻陳列館」で「張遷碑」「衡方碑」「晋任城太守夫人孫氏碑」などを見る。次に北上し、東御座の「泰山刻石」を見る。東御座は皇帝の宿泊所であった。次に仁安門を入り東西の碑廊、泰山の神を祀った主殿の天賜(覲)殿(1009 年創建)にある「啓蹕回鑾図」、銅亭などを見学して、厚載門を出て紅門路を北上し泰山へ。

資料2 「岱廟碑林」

「大宋東岳天齊仁聖帝碑」 北宋・真宗の大中祥符6年（1013）高さ8.2m幅2.3m 文は晁廻、書は尹熙古行書2319字 篆額「大宋東岳天齊仁聖帝碑」碑陰の楷書「五嶽獨宗」は、明代の張允濟と王賢の書。

「宣和重修東岳廟碑」 北宋・徽宗の宣和6年（1124）高さ9.25m幅2.1m 楷書1268字、篆額「宣和重修泰廟碑」碑陰に「萬代瞻仰」。碑の周囲には方夔紋が刻されている。

長さ5mの竜首亀形の台座になっている。夔

徽宗皇帝代の20年間に行われた岱廟拡張工事の経緯が刻されている。

「第一山」 米芾の書。

「張遷碑」 後漢中平3年（186年）

高さ3.17m、幅1.07m

碑陽は八分隸16行、満行42字、

碑陰は3段。碑額は独特的な篆書（隸書？）で、

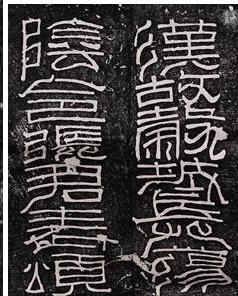
「漢字故谷城長蕩陰令張君表頌」。

古拙、古朴。円首の碑。張遷の頌徳碑。

何紹基の臨書などが参考になる。



張遷碑 部分



張遷碑 碑額



張遷碑整拓本

「衡方碑」 後漢の建寧元年（168年）書は朱登。

衡方の頌徳碑。高さ165cm、幅1m。

碑陽、隸書で825字。23行、満行36字。

八分隸。張遷碑に近い書風。碑額も隸書。

全称は「漢故衛尉卿衡府君之碑」



衡方碑 部分



衡方碑 碑額



衡方碑整拓本

「晋任城太守夫人孫氏碑」 西晋の泰始8年（272）碑陽：隸書20行、満行37字、約707字。

高さ2.5m、幅0.97m。魏隸と同じ書法（銘石体）。

晋の任城国の太守・羊氏の妻・孫氏の墓碑。碑額は、隸書で、

「晋任城太守夫人孫氏之碑」と書かれている。



孫夫人碑部分

「啓蹕回鑾圖」 天覲殿の中にある。

泰山神の巡行の様子が描かれている。

全長62m、高さ3.3mの壁画。天覲殿は北京故宮の太和殿、曲阜孔廟の大成殿と並ぶ中国古代三大宮殿の一つ。



啓蹕回鑾圖 部分

泰山刻石

秦の始皇帝が天下統一後 3 年目の秦始皇 28 年（前 219）に、

泰山に立てた、秦と始皇帝の頌徳碑。「封泰山碑」ともいう。

書も文も李斯。小篆の典型。始皇帝は、同様な碑を 7 基作ったが、

それらは石碑の起源といわれている。全文 222 字ほどだったが、

現存するのは「斯臣去疾昧死臣請矣臣」の 10 字のみである。



泰山刻石部分

資料 3 「泰山」



泰山登山路見取図

泰山登山ルート

岱廟を出て、泰山東路を北上し（約 2 キロ）岱宗坊から閔帝廟、一天門へ。一天門から孔子登臨處、紅門をくぐり万仙楼へ（紅門から南天門まで約 9 キロ、約 7000 段）万仙楼で入場券（127 元、老年は 100 元？）を買う。万仙楼から革命烈士記念碑、風月無辺刻石、三觀廟から斗母宮へ（約 1.3 キロ）、斗母宮を少し過ぎたあたりを右に入り經石峪へ（高山流水亭記・泰山摩崖金剛經を見る）。本道へ戻り、奉安記念碑、柏洞、壺天閣、回馬嶺から中天門へ、さらに雲歩橋、五大夫松、望人松、朝陽洞を見て対松亭（十八盤）から昇仙坊を経て南天門へ（十八盤は泰山で最も険しい所である。標高差 400m、距離約 800m、約 1600 段。）南天門は頂上の入口で、ここから頂上まで約 4～500 段の階段がある。南天門から天街、碧霞祠を過ぎ、唐摩崖（紀泰山銘などを見る）、瞻魯台、日觀峰、月觀峰、凌漢峰、黑龍潭、扇子崖、傲來峰、長壽橋、竜潭飛瀑、「五嶽獨尊」の碑、漢の武帝の「無字碑」、孔子廟、頂上の玉皇頂の玉皇殿、中庭の古登封台、玉皇頂 1545m の標識などを見る。玉皇殿西側の望河亭から黄河が見える。下山は 3 時間ほどか。特に南天門から中天門までの胸突き八丁は、ゆっくりと歩くこと。

じょうじょう

泰山は、中国第一の靈峰。道教の聖山。花崗片麻岩の山。東岳大帝（泰山府君）、碧霞元君（泰山娘娘）、眼光奶奶、觀音菩薩や弥勒菩薩を祀っている。封禪の儀式が行われた山で、秦の始皇帝以前、72人の帝王が封禪の儀式を行ったという。始皇帝以後は十数人の皇帝が封禪の儀式を行ったと伝えられる。

たいざん

泰山には、古代の建築物群が20カ所、摩崖・石刻が2200カ所ほどもある。

「高山流水亭記」 経石峪試劍石摩崖に彫られている。高さ4.1m、幅6.3m 楷書 1572年（明代）の作？

たいざんまがいんごうきょう

「泰山摩崖金剛経」 制作年、作者不明。『金剛般若波羅蜜経』の一部が、自然の石壁に刻されている。

隸書。もとは2500字ほど
あったが、今は約1067字
残っている。
字大は30~50cm角。



「山道の摩崖」は登山口から山頂まで、

400基以上あるが、そのほとんどが、
明代以降に刻されたもので、古くても唐代
のものであるようだ。彩色されているもの
が多い。彩色は風化を防ぐためといふこと
らしいが、多くは書として価値の低いもの
に彩色しているようである。

「紀泰山銘」 唐の開元14年（726）玄宗41歳の書 隸書

玄宗が封禪の時に書いたもの。

内容は封禪について。

高さ約13.3m、幅約5.3m、現存字数1008字。

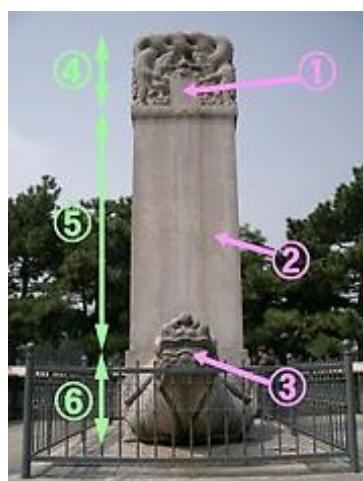
題額は「紀泰山銘」 唐隸の代表作。

滋賀県の観峰館にも原拓がある。



原拓「紀泰山銘」
千葉県成田市の
成田山書道美術館蔵

碑の知識



① 碑額
ひがく
② 碑陽、碑陰、碑側
ひよう ひいん ひそく

③ 亀趺
きふ
④ 碑首
ひしゅ
⑤ 碑身
ひしん

⑥ 碑座、碑趺
ひざ ひふ



「大金重修東岳廟之碑」

圭首

円首



「鄭固碑」碑首
せん
穴を穿という。



「礼器碑」碑首



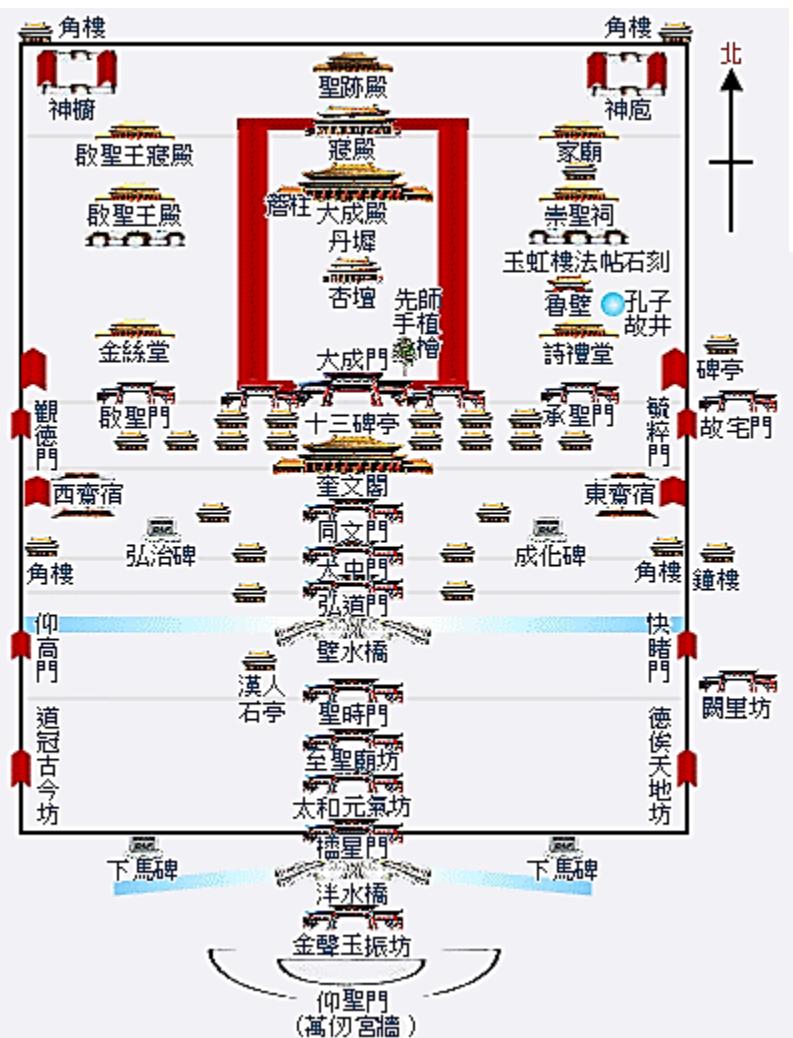
「孔宙碑」碑首
上部の白い筋を
うん
量という。

資料4 「曲阜碑林」

孔廟、孔府、孔林のことを「三孔」とよぶ。

「孔廟」は、孔子の靈を祀る所で、中国第一の廟
紫禁城、岱廟と並ぶ中国三大宮廷建築の一つ。
東西約150m、南北約1500m。
「孔府」は、孔子一族の邸宅で、部屋数463。
「孔林」は、孔子と孔子の子孫の墓所で、
墓は十万を超える、石刻数は五千以上ある。

「孔廟」



仰聖門に入る。門の上部に「萬仞宮牆」の文字。周囲に楕円形の壁（萬仞宮牆という）があり、第一番目の碑楼（金聲玉振坊）をぬけ、泮池に架かる泮水橋を渡り、「欞星門」（乾隆帝筆）をぬけ、「太和元氣坊」、「至聖廟坊」（篆書）、「聖時門」をぬけ「壁水橋」を渡り「弘道門」「大中門」（徽宗筆）「同文門」をぬけると「奎文閣」をぬけると「十三碑亭」がある。「大成門」をくぐり「大成殿」へ。孔子の講堂跡といわれる「杏壇」がある。図の「孔子故井」の横にある「魯壁」は孔子9代目の孔鲋が、始皇帝の焚書坑儒から孔子の著作を壁中に埋めて守るために作ったといわれる。孔鲋は生き埋めにされた。

孔廟を出て、「漢魏六朝碑刻陳列館」へ。

資料5 「漢魏六朝碑刻陳列館」

曲阜碑林は漢・魏・北齊・六朝・隋・唐・北宋・金・元代などの碑刻を46基ほど集めた碑林。

西安碑林は唐代の碑刻を中心とした碑林。せんそう剪装本の原石を見ることで、何を感じ、何を思うだろうか。



「魯孝王刻石」前漢・五鳳2年（前56）古隸 24.0×25.5cm

「五鳳二年/魯卅四年/六月四日成」（釈文）五鳳二年、魯の三四年、六月四日成る。

隸書13字が縦3行に刻されている。「五鳳二年刻石」とも呼ぶ。

曲阜で最古の刻石。五鳳は前漢の宣帝の年号。篆意が残っている。

年の字の縦画を長く伸ばして三行の行末をそろえている。



「乙瑛碑」後漢・永興元年（153年）八分隸の典型

182×86cm 18行、満行40字。

「孔廟置守廟百石卒史碑」が正式な呼び名。

史晨碑、孔廟碑と並び「孔廟三碑」と称される。

文の内容は、魯の前相乙瑛の請願を受けて、孔子廟を守らせるため卒史を置くことになった経緯などを記したもの。

後漢の建碑の最盛期のもの。

礼器碑と共に隸書の基本を学ぶための最高の手本である。

漢碑の整齊美の代表といわれる。



乙瑛碑 部分



「礼器碑」後漢・永寿2年（156年）八分隸の典型

165×74cm 碑陽は16行、満行36字。

碑陰は3段17行。四面に刻されている。

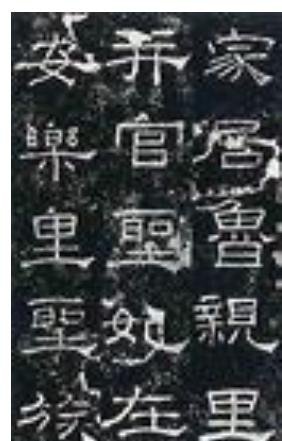
隸書美の頂点に一つといわれる。

「孔廟三碑」の一つ。

隸書学習者の必修手本。

学ぶべきものは、力強い線質と古拙さと気品など。

魯の相の韓勅の功績を讃えた碑。



礼器碑 部分

礼器碑整拓本



史晨前碑と史晨後碑の整拓本

「史晨碑」後漢・建寧2年(169年)

八分隸 231×112 cm

碑陽は17行、満行36字。

碑陰は14行、満行36字。

「史晨前碑」

碑陰を「史晨後碑」という。

「孔廟三碑」の一つ。

「魯相史晨孔子廟碑」ともいう。

魯の太守の史晨が行った孔子廟の祭祀を記念し表彰しもの。前碑は上奏文と孔子を讃えた文が、後碑は史晨の功績と祭祀の様子が記されている。



史晨前碑部分



孔宙碑整拓本

碑額

「孔宙碑」後漢・延熹7年(164年)

八分隸 170×93 cm

碑陽、15行、満行28字。

碑額は篆書で「有漢泰山都尉孔君之碑」と刻されている。

もと孔林にあつたらしい。字形は扁平で横に長く伸びている。

泰山の長官で孔子19世の孫の孔宙の頌徳碑。

碑陰の篆額には「門生故吏名」と刻され、門生・故吏・弟子などの名が3段に刻されている。



孔宙碑部分



張孟龍碑整拓本(碑陽)

碑額部分

「張孟龍碑」北魏・正光3年(522年)

楷書 225×85 cm

碑陽、26行、満行46字。

碑額は楷書で「魏魯郡太守張府君清頌之碑」

北魏を代表する名品。

魯郡の太守の張孟龍の顕彰碑。



張孟龍碑部分



賈思伯碑整拓本



碑額部分

かしはくひ
「賈思伯碑」北魏・神龜2年(519年)

楷書 215×84 cm

碑額は楷書で「魏兗州賈使君之碑」

「賈使君碑」ともいう。

えんしゅう
兗州の長官であった賈思伯の頌徳碑。

「張孟龍碑」と同じ手になると思われる。



賈思伯碑部分



孔羨碑整拓本



碑額

こうせんひ
「孔羨碑」魏・黄初元年(220年)

隸書 22行、満行40字

碑額は篆書で「魯孔子廟之碑」

じょそんごうそう
「上尊号奏」「受禪表」と並び、
こうしょさんひ
魏の「黄初三碑」と呼ばれる。



孔羨碑部分



王陵塞石刻石

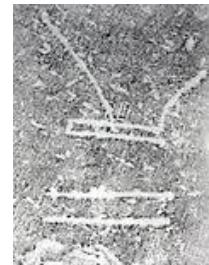


拓本

おうりょうさいせき
「王陵塞石刻石」前漢・甘露3年(前51年)

篆書の筆意のある隸書?

右上に7字「王陵塞石廣四尺」、
左下に「二尺」。



拓本



熹平石經殘石部分

きへいせきけいざんひ
「熹平石經殘碑」後漢・熹平4年(175年)～光和6年(183年)

さいよう
八分隸、蔡邕書? 漢代の典型的な公用書体。書道的価値はない。

けいしょ えききょう しきょう しょきょう ぎらい しゅんじゅう く ようでん ろんご
これは、経書(易経・詩経・書経・儀礼・春秋・公羊伝・論語の七経)を勅命により校定させたものを石に刻したもの。もと洛陽の太学に46碑(20余万字)が建てられていたが、現在は100片ほどが残石になっている。現存最古の石経である。



孔謙碑の写真



孔謙碑部分

こうけんひ
「孔謙碑」後漢・永興2年(154年)

八分隸、83×52 cm

8行、満行10字。

孔子20世の孫、孔謙の頌徳碑。



孔謙碑整拓本

資料6 「孔府」「孔林」「顔廟」「周公廟」



「孔林」 8:00~17:30 入場料 40 元

孔林は、孔子とその一族の墓地。十万を超える墓がある。
歴代の4000以上の石碑がある。

78代目までの孔家の子孫が埋葬された、世界最大、最古の氏族墓地である。面積は200ヘクタールあるらしい。

「孔府」

8:00~17:30 入場料 60 元

孔府は、孔子（前552~前479）の直系子孫（孔家）とその家族が住んだ住宅兼執務室。建物が152、部屋が463室もある。1937年まで孔家が居住していた。

孔家は、代々皇帝から保護され、爵位を与えられた中国史上最大の土地を所有する大地主であった。



「顔廟」 8:00~16:30 50 元

孔子の愛弟子の顔回（前514~前482）を祭ったもの。顔氏の子孫が祭られている。書道に深い関わりがある、北斎の顔子推、唐の顔師古、顔真卿が祭られている。孔子の母、顔徵在は顔氏の出身。

「周公廟」入場料 10 元。



周公旦の墓。周広旦は、西周王朝（紀元前 12 世紀）の功臣。本名は姫旦。周の文王の子、武王の弟。武王の死後、成王を助け摂政となる。礼楽制度を定めた。周礼、儀礼、易經の爻辞などを著した。孔子は旦を理想の聖人と崇拝し、毎日、夢に見るほど敬慕したといわれる。

※爻辞とは、卦を構成する各爻それぞれについて 384 通りの説明をしているもの。「卦辞」「爻辞」「十翼」をまとめて「易經」という。※爻とは卦の基本記号の ——— と ——— のこと。

金冬心（金農）〈1687～1763〉は、科挙の試験に落第し、帰郷の旅の途中、曲阜の孔子廟に寄った。そして、孔廟の石碑を見て「魯中雜詩」を作った。その中の一首。

「会稽内史（王羲之のこと）俗姿を負う。字を学べど荒疎にして笑いをまねく。書家の奴婢となるを恥じ、華山片石（「西嶽華山廟碑」のこと）をわが師となす。」

鄭道昭（?～516）

鄭道昭は、北魏（386～534）の人。

鄭羲（426～492）の末っ子。字は伯休。

荥陽（開封）の出身。「榮」字の中の「水」を、

「火」にしている。

彼は北魏の孝文帝に仕えた高官。

晩年、光州刺史となって現在の掖県に赴任。

その後、青州刺史となり、洛陽で没した。

三山（天柱山・雲峰山・太基山）に遊び、自然に親しみ、

道教思想に影響を受けたようだ。

三山や百峯山にある石刻は、511 年（辛卯）、512 年（壬辰）に書かれたものと考えられている。鄭道昭の書と考えられている刻石は、雲峰山に約 15 点、大基山に約 10 点、天柱山に約 4 点ある。いずれの刻石も石質が柔らかかったために、風化がはげしく、線質に丸味があるところから円筆の代表のようにいわれるが、元は方筆だったかもしれない、真実は分からない。

鄭羲上・下碑以外のほとんどの石刻は神仙に関するものであり、鄭道昭の道教思想への傾倒ぶりが想像される。また天柱山、雲峰山の名は、鄭道昭が名づけたと考えられている。



「鄭羲下碑」の昔の姿

資料7 天柱山

てんちゅうざん
平度市大澤山鎮北隋村の北 1.5 キロにある。海拔 280m。

山全体が白御影石である。今は岩山だが、
北魏の頃は、木におおわれた緑の山だったという。



「鄭羲上碑」整拓本

ていぎじょうひ
「鄭羲上碑」 鄭道昭書 北魏・永平4年(511年)

4.6×1.45m 20行、満行50字、約1000字。

正式には「北魏中書令鄭文公(羲)上碑」と呼ぶ。

道昭の父の鄭羲の功績を刻しているが、石質がもろかった
ので、ほぼ同じ文章を雲峰山に再刻している。



天柱山



以前の「鄭羲上碑」



「東堪石室銘」部分

とうかんせきしつめい
「東堪石室銘」 鄭道昭書 157×126cm

天柱山上東堪石室銘。魏秘書監・司州大中正・平東將軍・光州
刺史・榮陽鄭道昭作。その辞に曰く。孤峰秀峙にして。高く霄星
を冠す。寔を天柱と曰い、萊城を鎮帶す。懸崖万仞。峻極霞亭
す。日に接し月を開き、麗景流精たり。朝に巖室を暉かせ、夕
に松清を曜かす。九仙儀綵、余用うるに形を栖す。龍遊び鳳集り、
斯に處し斯に寧んず。淵綿言想せば、燭の空濱を照らす。道暢時
乗し、業光幽明たり。雲門烟石、これに登らば長生せんと。



「東堪石室銘」 左端にある



「此天柱之山題字」整拓本

これてんちゅううのやまだいじ
「此天柱之山題字」 鄭道昭書 54×57cm

此天柱之山

これ天柱の山。



「此天柱之山題字」



「上游天柱下息雲峯題字」整拓本

じょうゆうてんちゅううかそくうんぼうだいじ
「上游天柱下息雲峯題字」 鄭道昭書 74×80cm

榮陽鄭道昭上游天柱。下息雲峯。

榮陽鄭道昭上れば天柱に遊び、下れば雲峰に息む。



「上游天柱下息雲峯題字」



「姚保顥造石塔記」整拓本

「姚保顥造石塔記」 鄭道昭書?

7行、満行6字

●「四言詩殘刻」鄭述祖書

●「天柱山銘」鄭述祖書

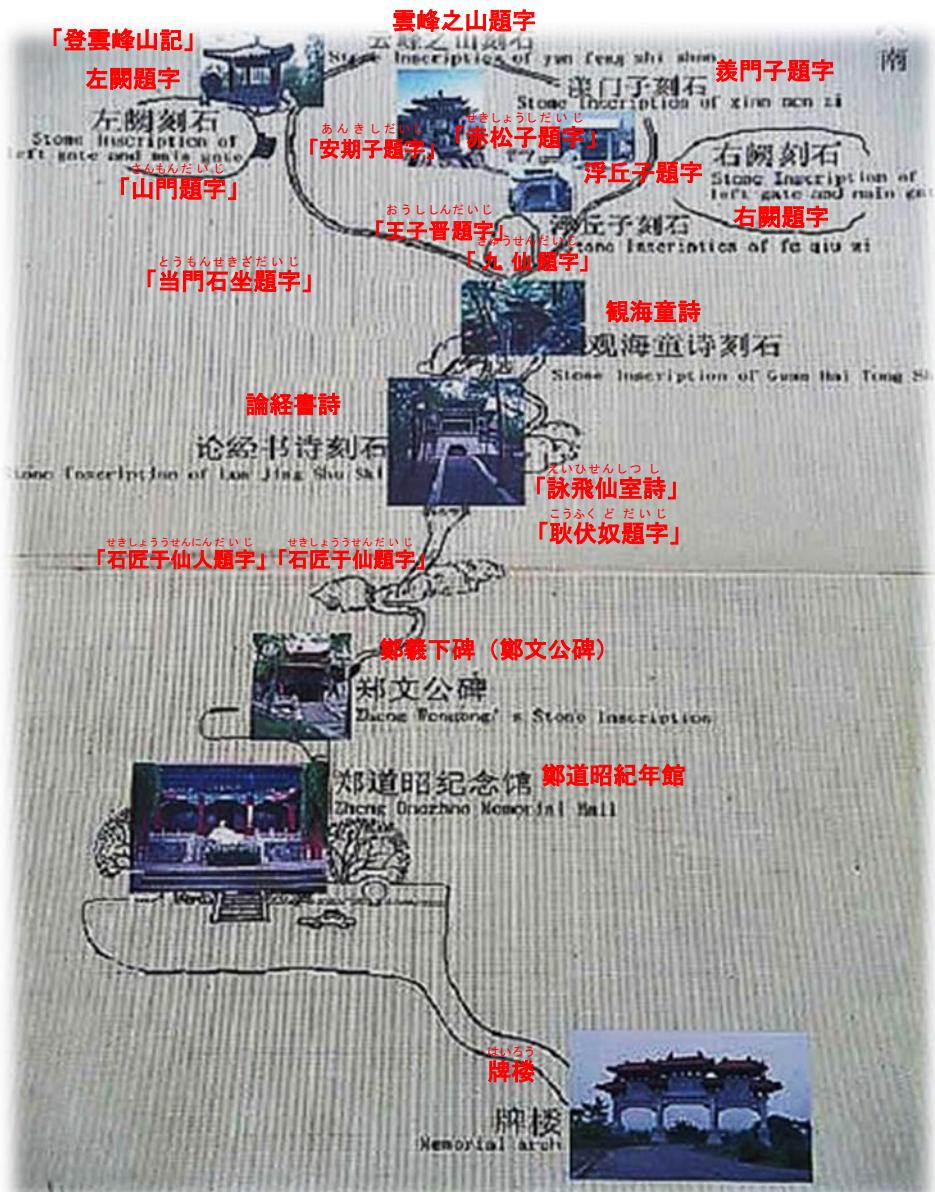
うんばうざん
雲峰山

らいじゅう
萊州市の南約 7 キロの所にある。海拔 305m。
鄭道昭の書と考えられる刻石が 15 点ほどある。

入山料は 20 元? 鑑賞には 2 時間はかかる。



雲峰山山頂



雲峰山登山ルート図（この地図は下が北）



「鄭羲下碑」部分

ていぎかひ
「鄭羲下碑」鄭道昭書・撰 北魏・永平4年(511)

楷書 450×600 cm 51行、約1243字

碑額(楷書)「滎陽鄭文公之碑」

鄭道昭の父の鄭羲の頌徳碑。

「鄭文公碑」とも呼ぶ。



「鄭羲下碑」



せきしょううせんにんだいじ
「石匠于仙人題字」



せきしょううせんにんだいじ
「石匠于仙人題字」

せきしょううせんにんだいじ
「石匠于仙人題字」「石匠于仙題字」

山道の左側(東)のテーブル状の石の上に刻されている。

書者は不明。鄭道昭ではないだろう。



「論經書詩」部分

ろんけいしょし
「論經書詩」鄭道昭書・詩 北魏・永平4年(511)

楷書 320×320 cm 20行、324字 1文字約17cmの

大字。自作詩の五言古詩48句から成る。

鄭道昭の最高傑作という。



「論經書詩」



「詠飛仙室詩」整拓本

えいひせんしつし
「詠飛仙室詩」北魏・永平4年(511) 46×54 cm

「詠飛仙室。巖堂隱星霄。遙檐架雲飛。鄭公乘烟至。」

道士披霞歸。」

せいしよう ようえん
飛仙室を詠す。巖堂星霄を隠し、遙檐雲を架けて飛
び、鄭公烟に乗りて至る。道士霞を披いて帰る。



「詠飛仙室詩」

岩の下の空洞を飛仙室と呼ぶ。



「耿伏奴題字」整拓本

こうふくどだいじ
「耿伏奴題字」書者は不明。鄭道昭書?

東 耿伏奴 徒駕



「觀海童詩」整拓本

かんかいどうし
「觀海童詩」鄭道昭書・詩 五言古詩

約 120×180 cm 13 行 西峰にある。

友人と共に雲峰山に登った時の楽しさを詠じた五言古詩。



「觀海童詩」



「右闕題字」整拓本

うけつだいじ
「右闕題字」鄭道昭書 68×101 cm

「雲峰山之右闕也。棲息於此鄭公之手書。」

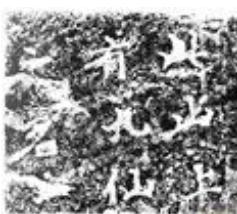
雲峰山の右闕也。これに棲息す。鄭公の手書。

西峰にある。

特に「雲峰」の字は、楷書の傑作といわれる。



「右闕題字」



「九仙題字」整拓本

きゅうせんだいじ
「九仙題字」鄭道昭書 48×53 cm

「此山上有九仙之名」

この山上に九仙の名あり。



「九仙題字」



「王子晉題字」整拓本

おうしじんだいじ
「王子晉題字」鄭道昭書 42×54 cm

「王子晉駕鳳栖太室之山。」

王子晉鳳に駕し太室の山に栖す。



「王子晉題字」



「浮丘子題字」整拓本

きゅうしちだいじ
「浮丘子題字」鄭道昭書 54×47 cm

「浮丘子駕鴻栖月 口之山」

浮丘子鴻に駕し月口の山に栖す。



「浮丘子題字」



「赤松子題字」整拓本

せきしょうしだいじ
「赤松子題字」鄭道昭書 66×53 cm

「赤松子駕月栖玄圃之山。」

赤松子月を駕して玄圃の山に栖す。



「赤松子題字」



「羨門子題字」整拓本

せんもんしだいじ
「羨門子題字」鄭道昭書 43×75 cm
「羨門子駕日栖崑崙之山。」
羨門子目に駕し崑崙の山に栖す。



「羨門子題字」



「雲峰之山題字」整拓本

うんぽうざんだいじ
「雲峰山題字」鄭道昭書 60×16 cm
「雲峰之山」
雲峰の山
鄭道昭の獨得の「雲」字。



「雲峰之山題字」



「左闕題字」整拓本

さけつだいじ
「左闕題字」鄭道昭書 63×48 cm
「雲峰山之左闕也。」
雲峰山の左闕也。



「左闕題字」



「登雲峰山記」整拓本

とううんぽうざんき ていじゅつそ
「登雲峰山記」鄭述祖、撰と書 河清3年（564）
20行、満行28字

鄭述祖は、鄭道昭の三男で能書家として知られる。



「登雲峰山記」



さんもんだいじ
「山門題字」鄭道昭書 63×65 cm
「滎陽鄭道昭之山門也。於此遊止。」
滎陽鄭道昭の山門也。ここに遊止す。





「安期子題字」整拓本

あんきしだいじ
「安期子題字」鄭道昭書 42×62 cm

「安期子駕龍栖蓬萊之山。」

安期子龍に駕し蓬萊の山に栖す。

「安期栖處題字」とも呼ぶ。



「安期子題字」



「當門石坐題字」整拓本

とうもんせきざだいじ
「當門石坐題字」鄭道昭書 80×83 cm

「鄭公之所當門石坐也」

鄭公の門に当たるところの石坐也。



「當門石坐題字」

たいきざん 太基山

らいしゅう

萊州市街より東に 10 キロほどの所にある。標高約 478m。公園になっている。

鄭道昭は、この山全体を神山と考え、中心部を道士谷と名づけ、その周囲の、東西南北の峰に五つの仙壇を造った。



「南山門題字」整拓本

なんざんもんだいじ
「南山門題字」鄭道昭書

42×30 cm

「此仙壇南山門也。」

これ仙壇南山門也。



ほくさんもんだいじ
「北山門題字」鄭道昭書

61×46 cm

「此仙壇北山門也。」

これ仙壇北山門也。



「仙壇銘告題字」整拓本

せんだんめいこくだいじ
「仙壇銘告題字」鄭道昭書

86×53 cm 「太基山銘」ともいう。

此太基山内中明岡及四面巖頂
はら上。嵩岳先生榮陽鄭道昭。石を掃
い五處に仙壇を置く。その松林草
木。よく脩奉するものあり。世貴
吉昌。慎んで侵犯することなか
れ。銘告を銘して知らしむるな
り。



はくうんのどうだいじ
「白雲之堂題字」鄭道昭書

60×34 cm

中岳先生榮陽鄭道昭白雲の
堂也

「白雲之堂題字」整拓本



「中明之壇題字」整拓本

ちゅうめいのだんだいじ
「中明之壇題字」鄭道昭書 54×46 cm
中岳先生榮陽鄭道昭中明の壇也。



「青烟里題字」整拓本

せいえんりだいじ
「青烟里題字」鄭道昭書 54×45 cm
その居所号して、白雲郷青烟里という也。



「玄靈宮題字」整拓本

げんれいきゅうだいじ
「玄靈宮題字」

鄭道昭書

53×41 cm

中岳先生榮陽鄭道昭玄靈の宮也。



「朱陽臺題字」整拓本

しゅようだいだいじ
「朱陽臺題字」

鄭道昭書

68×47 cm

中岳先生榮陽鄭道昭朱陽の臺也。



「青烟寺題字」整拓本

せいえんじだいじ
「青烟寺題字」

鄭道昭書

60×47 cm

中岳先生榮陽鄭道昭青烟の寺也。



「白雲堂三大字」

鄭道昭書？



「太基山置仙壇詩刻」鄭道昭書

13行、満行19字。

「登太基山詩」ともいう。



「白雲堂三大字」整拓本

「太基山置仙壇詩刻」整拓本

「太基山置仙壇詩刻」



「歲在壬辰建題字」

鄭道昭書？

北魏・延昌元年(512)



「歲在壬辰建題字」整拓本

「歲在壬辰建題字」

● 「雲居館山門題字」鄭述祖書

● 「石人題字」鄭述祖書

資料8 中国史の概略

殷 (前17世紀頃～前1046年)

周公旦 (前1100頃～?)

西周 (前1046年頃～前771年)

周
春秋時代 (前770～前403)

孔子 (前552～前479年)

東周 戰国時代 (前404～前221)



戦国時代勢力地図

秦 (前221～前206)

漢 (前漢・新・後漢) 前206年～8年～23年、25年～220年

三国時代 (魏・吳・蜀) 220年～280年

西晋 (265年～316年)

北 (五胡十六国)
304年～439年

南 (東晋, 317～420年)
王羲之 (303～361年)

中国南北に分裂

(北朝) 439年北を北魏が統一

北魏 (386～534年東西に分裂)

孝文帝 (467～499年)

鄭道昭 (?～516年)

西魏 (535～556) 東魏 (534～550)

554年二王の法帖伝わる

北周 (556～581) 北齊 (550～577)

隋 (581～618年) 約300年ぶりに南北を統一

唐 (618～690、705～907年)

古墳時代 (250年頃～600年末頃)

飛鳥時代 (592～710年)
「宇治橋断碑」(646年)

奈良時代 (710～794年)
「多胡碑」(711年)



南北朝時代勢力地図

楷書は、中国の北朝では、隸書→楷書、南朝では、隸書→行草書→楷書、と発達の過程が違っている。日本の書壇では北魏の楷書を「六朝楷書」や「六朝体」と呼んでいるが、間違った呼称はやめるべきだと考える。中国式に「魏楷」または「北魏楷」と呼んだほうが良いだろう。日本には、飛鳥時代に、朝鮮半島経由で北朝の楷書が伝わったようである。北朝では、紙よりも磨崖や碑など金石文の形で書き残された。